

「A2-BCP」に基づく 訓練の結果と課題

○全国主要空港※において、5月22日～6月20日の間、

「A2-BCP」に基づく訓練を実施。[資料1-2参照]

※成田、羽田、中部、関空、伊丹、新千歳、仙台、新潟、広島、高松、福岡、鹿児島、那覇、北九州、長崎、神戸：計16空港

○全国主要空港では、既に「A2-BCP」を昨年度中に概成させているところであるが、今回の訓練の結果を踏まえ、更なる改訂を進めていくところ。

○また、今回の訓練で明らかになった課題については、今年度策定予定の指針にも反映。今後、国管理空港において積極的に取組を推進するとともに、国管理空港以外についても推奨していく。

1. 今後の取組の参考となる課題及び好事例 ①

1. 総合対策本部の設置

課題	取組の好事例
会議途中でも各機関が情報を把握し易いよう工夫すべき。	<ul style="list-style-type: none">・各機関が有する情報について、参集者が随時確認可能な災害掲示板等にリアルタイムに反映。・パソコンやスマホで各構成員が確認。
医療の観点(医師の確保等)からも、地方自治体との連携等は不可欠。	<ul style="list-style-type: none">・災害時の医療分野の体制確保に向けて、地方自治体との協定締結。・航空事故発生時の取り決めに拡張。・総合対策本部の構成員として医療機関を参集。
緊急時の連絡体制を共有することが重要(自然災害の場合だけ特別な連絡経路だと混乱)。	<ul style="list-style-type: none">・通信機能喪失時も含めて、衛星電話等、考え得る通信手段について関係者間で事前に調整。・テロ等他の事案における既存の連絡システムを活用。
参集者の判別がしやすいよう工夫が必要。	<ul style="list-style-type: none">・各機関がそれぞれの活動服やビブス(所属等が明記されたカラーゼッケン)を着用して参集(複数名が参加する場合は代表者が分かるよう工夫)。
国土交通省航空局への報告にあたり、現場の状況が伝わりにくい。	<ul style="list-style-type: none">・ターミナルビル内外の現場映像を国土交通省航空局と共有。

1. 今後の取組の参考となる課題及び好事例 ②

2. 各機能の対応計画

課 題	取組の好事例
外国人も含めた滞留者への情報提供をどうすべきか。	<ul style="list-style-type: none">・対応する側のマンパワーが限られることも踏まえ、先進機器を活用。・多言語メガホンや自動翻訳機、ピクトグラム(何らかの情報や注意を示すために表示される視覚記号の一つで「絵文字」のこと。)は有効。
(本来滞留者対応の主体となるべき)空港ビル会社だけでは、英語以外の案内標記について対応が難しい。	<ul style="list-style-type: none">・外国人への情報提供にあたり、乗り入れる航空会社等に対し、当該社の母国語の対応について協力を要請。・空港利用者にも翻訳やSNSによる拡散の協力を要請。
個別事業者の報告の積み上げでは、滞留者の数を正確に把握することが難しい。	<ul style="list-style-type: none">・避難場所で滞留者カードを配布。・警備員が定期的に巡回して滞留者数をカウント。
避難誘導について計画通り実行可能か不明。	<ul style="list-style-type: none">・予め避難誘導の訓練を実施した上で、「滞留者対応計画」について滞留者を安全な場所に避難するまでの目標時間を明記。
携帯電話の充電用の延長コードがあっても、充電器を持っていない人は利用できない。	<ul style="list-style-type: none">・非接触式の充電機器を準備。

2. 各空港の状況を踏まえて検討すべき課題

- 航空機やGSE車両、給油車などの避難方法
- 屋外のスタッフとの情報伝達方法
- 報道対応（負傷者等の性別、国籍、名前等の問い合わせへの対応方法）
- 各機関の安否報告の実施と範囲（発災時点の勤務者か組織全体か、関係事業者も含むか、等）
- 滞留者カードの集計方法や記入方法
- 空港ビル内のバックアップ電源の確認
- 施設の状況確認の迅速化
- 旅客対応要員のスキルアップ
- 滞留者名簿の作成方法
- 出入国手続き中の旅客の避難方法
(避難スペースの確保や、手続き終了者を避難場所に誘導する際の再入出国手続き等)
- 訓練の更なる充実

3. 特に御議論頂きたい課題

○総合対策本部の考え方

- ・被害状況の把握(情報収集のあり方)
- ・参集者の考え方(災害時に各機関の長が実際に参集可能か)
- ・参集にあたってのタイムライン
- ・参集が困難な場合の対応方針

○地震発生時の避難場所の考え方

○バス運行再開時に混乱を避けるための対応(滞留者の避難や空港外への移動にあたり、優先順位等をどの様に設定すべきか)